

**記者会見概要**

日時：平成 23 年 4 月 11 日（月）19:30～21:20

場所：東京電力本館 3 階 ABC 会議室

先方：記者約 90 名（カメラ 10 台）

当方：原子力・立地本部

原子力設備管理部

広報部

**配布資料：**

- ・ 福島第一原子力発電所の状況
- ・ 福島第一原子力発電所 2 号機取水口付近からの放射性物質を含む液体の海への流出について（続報 7）
- ・ 福島第一原子力発電所タービン建屋付近の地下水からの放射性物質の検出について
- ・ 福島第一原子力発電所敷地内における空気中の放射性物質の核種分析の結果について（第十七報）
- ・  $\gamma$ 線放出核種測定・評価プロセス
- ・ 2011.4.11 シルトフェンス設置作業
- ・ 2011/04/11 遠隔操作重機によるガレキ撤去作業
- ・ 無人ヘリ「T-Hawk」からの撮影画像
- ・ 福島第一原子力発電所 4 号機 使用済燃料プール水サンプリング計画について
- ・ 福島第一原子力発電所モニタリングカーによる計測状況 他
- ・ 福島第一原子力発電所 1～3 号機プラント状況 他
- ・ 福島第二原子力発電所モニタリングによる計測状況

**質疑：**

Q. 2 号機の水の移送について、リークテストをしたらリークがあったとのことだがどのような状況だったのか。

A. 1 号機の縦坑から 2 号機のラインにねじ込みテストを行ったが、継ぎ手から微少なにじみ程度の漏れがあった。場所は屋外、箇所数は 5 カ所。まし締めをして直していると聞いており、修理には大して時間はかからないと認識。地震の屋外確認から入ることから、その後にリークテストを行って本番に移ると認識。

Q. CAMSのデータが下がってきているのはなぜか。

A. 徐々に数値が下がっているのは、理由の1つは、炉が地震から1ヶ月経ち、短半減期のものが減ってきていること。もう1つは新たな放出がないということではないかと考えている。ただし、CAMSの絶対値そのものにどれだけの意味があるかとは思っている。

Q. 4号機のSFのサンプル調査を実施するとのことだが。他号機はどうするのか。

A. 写真の通り、4号機については水面が見えておりサンプルしやすい。3号機も同じくチャレンジしたいと考えている。2号機は建屋が健全でありサンプルが難しい。1号機は屋根が格納容器上部に落ちているとのこともあり、サンプルは難しいと思う。

Q. 集中ラドの放出は終了したのか。

A. 点検・評価において特段のことがなければ終了と認識。近く評価が終わる。

Q. 1号機は水素爆発の可能性があると考え窒素注入したのか。

A. 直ちに危険な状態にあるという認識ではない。格納容器の中に酸素・水素がある程度存在すると認識。今後、格納容器内の水蒸気が凝縮することで、水素・酸素の割合が上昇する可能性があるということから実施したもの。

Q. 現時点で、水素爆発の可能性はどのように考えているのか。

A. 水素爆発はきわめて小さいと考えている。

Q. CAMS等の計測機器の復旧時期は。

A. 格納容器の中の機器か外の機器か見極めないといけない。

Q. 核種測定・評価プロセスにかかわっている人は東京電力社員だけか。

A. 当社の社員と協力企業の方で測定している。チェックは他電力からの応援いただき実施している。評価結果は保安院に提出している。

Q. 先ほどの地震で外部電源が切れた原因は。また、その影響は。

A. 今回、東北原子力線が切れた。具体的には、受け渡し地点である東北電力の富岡変電所で切れた。原因が当社側か東北電力側かについては不明。影響については、プラントのパラメータ等にはなかった。また、原子炉への注水が50分ほど停止したが、地震から1ヶ月が経ち残留熱の発生は少なくなってお

り、原子炉燃料損傷が進んだとはみていない。なお、人的な被害はなかった。

Q. 清水社長の現地訪問の状況は。

A. 本日午後、知事、副知事、県議会議長の席に名刺を置かせていただいている。知事にはお会いできなかった。オフサイトセンターに伺い、事故にご尽力いただいていることへの御礼とお詫びを申し上げた。

Q. しばらく現地に滞在するのか。

A. 帰京する。

Q. 今回の地震で注水が止まったのは地震の直後か。

A. 外部電源が喪失した時間は、地震発生と同時と考えている。

Q. 窒素注入し続けているにもかかわらず、格納容器内の圧力がバランスしているがどのように考えるか。

A. 初期圧力+100kPaの予定も、195kPaで平行しており格納容器から漏れているのではないかと考えている。中にあるものが出てきているのではないかとという懸念はあるが、MPに異常な値が計測されていないことから、放射性物質が拡散されている状況ではないと認識。

Q. 今回の地震の際に、消防ポンプなどのバックアップは実施しなかったという認識でいいのか。作業員の避難との関係も併せて教えてほしい。

A. 今回の地震においては、津波警報も出たため作業員に避難指示を出し、18:10 免震重要棟において全員の無事を確認している。津波の予想値・時刻が発表されていたこと、津波の監視員を配置していたことから、注意報が解除される前に、まず外部電源の復旧に着手した。それと同時平行して、電源車、消防自動車の準備を実施した。そのような中、外部電源により17:56に4号の受電、18:08に原子炉への注水が可能になった。

Q. 今後、大津波警報レベルが出た場合は、遠隔切り替え等ができないものなのか。

A. 地震の際には作業員の安全を優先し避難することが重要。その上で、注水ポンプの予備機、電源車について山側の方に移設をする、また、外部電源については5/6号側からのバックアップができるように対応していきたい。

Q. 福島県知事から面会に来ても拒絶すると言われていたのか。

5

A. 今回の事故に対し、早期の復旧に向けてまず取り組むようご指示をいただいていた中、お詫びするためお伺いしたものを。

Q. 4号機のSF水のサンプルは1～6号機で初めてと考えてよいのか。

A. よい。

Q. 4号機の高さはどのくらいなのか。

A. 天井の高さで46m。

Q. 使用済燃料プールのサンプル水採取においては、こぼれないように対策をとっているのか。

A. アンプのようなものを使って実施する予定。東金工場でモックアップの練習をして、可能ということが判明したことから実施したものを。

Q. 清水社長は被災者の方になぜ会わなかったのか。

A. 知事訪問、オフサイトセンター訪問後のぶら下がりの中で県民の皆さまにお詫びの気持ちを伝えさせていただいた。

Q. 次の訪問は。

A. 具体的には決まっていないが、決まり次第ご連絡したい。

Q. 画面を通じてということであれば現地に行く必要はなかったのではないのか。

A. 現地に足を運んで官公関係の方々に直接という気持ちもありお伺いしたところ。

Q. 説明を聞いていると、当面現地にはいかないのかなと思うが。

A. 具体的なスケジュールが決まっていなだけであり、決まり次第ご案内させていただきたい。今回、社長ももっと早くお詫びにいきたかったと言っているところ。

Q. 1号機の格納容器の窒素注入について。放射性物質の測定値に異常がないということだが、中でどのようなことが起こっているのか。

A. 核の容器の機密性が完全ではなく、窒素だけでなく水蒸気も漏れていると考えている。漏れている箇所は、貫通部であるペネトレーションといわれるところからではないかと思う。

Q. NRCは窒素注入とベントを併せて実施するように提言しているようだが。

A. 窒素注入とベントを同時に行うことにより、中の空気を窒素だけにすることを狙っていることと思う。ただし、その場合、ベント弁の状況等の確認なしには、格納容器のベントできない。

Q. 海水放水による放射性物質拡散の影響について。

A. そのあたりを最終的にチェックしているところ。

Q. 無人ヘリの動画によりわかった新たな事実は何か。

A. 新しい事実はない。もう少し近づく、ホバリング・ズームするなどして、今後SFがより詳細に撮れてくればよいと思う。

Q. 東芝が、福島第一原子力発電所廃炉に向けたロードマップを東京電力と経産省に提出しているが、提出した日付は。また、日立GEも同様に提出したようだが、予定日はいつか。

A. 東芝が4月7日に提出して、日立GEは2～3日後と認識している。

Q. これらに対して何を判断するのか。

A. 東芝から提案書が出ているが、我々は循環型の冷却システムと放射性物質をいかに拡散させないかが喫緊の課題と考えており、取りうるオプションを検討し実行することが優先させていただいている。廃炉に向けて5～10年先を検討するのではなく、喫緊の課題に優先して取り組んでいるところ。

Q. 東芝は自主的にロードマップを提出したのか。

A. そのように認識している。

Q. 3月11日の地震が送電系統や変電所等に与えた影響は。また、今回の地震で東北電力の富岡変電所にどのような不具合があったのか。

A. 1ヶ月前の地震については、大きな変電所に不具合があり、茨城県を中心に大規模に停電が発生した。変電所や送電鉄塔等への被害状況については改めて報告する。富岡変電所は東北電力であるが、当社の受電設備の故障か東北電力の設備の故障か、または事故の未然予防のために意図的に遮断したのかについては、まだ詳細な報告は入っていない。

Q. 余震のリスクが原子力発電所だけでなく、変電所や送電線にあることに不安を感じるがどうか。

A. 今回の地震や、7日の地震においても送変電設備に不具合があり、こちらの対策も必要であると考えている。今回の地震においても、原子炉に注水しているポンプが停電してしまったということもあり、消防車や電源車は準備しているが、さらに夜ノ森線や大熊線3、4号といった予備の受電設備からも切り替えられるように準備してまいりたい。

Q. 耐震性の対策はとっているのか。

A. 送変電設備については直接的な基準があるわけではないが、自重と風による設計になっており、台風等によって倒れることを防いでいる。今回のように夜ノ森線のように電圧の低い送電鉄塔に関しては、今後、事故の調査を踏まえて対策を検討したい。

Q. (本日提供の T-Hawk の映像を見たが) 3号機の蒸気は途切れなく出ているのか。

A. 遠隔カメラで監視しているが、あのような形で蒸気が出ている。二日に1度60~70トンほど注水しながら蒸発分を補っている状況。

Q. 今発生した地震の影響は。

A. 福島第一原子力発電所の震度は3で特段異常は無い。

Q. 放射性物質を含む排水の海への放出について、経営トップが説明責任を果たすべきだと思うが、次回会見予定は。また、金曜日に電事連会長会見があると思うが、清水社長は出席するのか。

A. 今週早い段階で社長の清水の会見の場を設けたいと考えており、もう少しを待ちいただきたい。日付が具体化した段階で改めて連絡したい。電事連会長会見も鋭意検討しており、改めて検討したい。

Q. 通常であれば会見に出席すると思うが、検討中とはどういう意味か。

A. 会見については具体化した段階で改めてお知らせしたい。

Q. 1号機のホースからのリークは。1号機立坑から2号に向けたものか。

A. その通り。

Q. リークがあった5カ所のカップリングはつなぎ手ということでよいか。また5カ所全部滲み程度か。

A. その通り。

- Q. 集中環境施設の海水への放出は終了したということによいか。
- A. 最終的な確認をしており、今後追加で放出することはないかと考えており、報告書がまとまり次第ご報告させていただく。
- Q. 注水が50分停止しても大丈夫とのことだが、何分なら危機的状況か。
- A. 現時点では50分間、注水がなくても大丈夫であったと評価している。
- Q. 今の注水量から想定すると、4トン程度の水が蒸発したものと思われるが、40～50cm下がっていたのではないのか。それで大丈夫とはどうか。
- A. プラントパラメータを見ると、1号機はマイナス1600mmで大きな変動はなかった。評価上の残留熱の発生量が少なかったものと考えている。
- Q. 2、3号機も同様か。
- A. 2、3号機の水位も地震の前後で大きな変化ない。水位の低下という観点ではさほど大きな影響はなかったものと考えている。
- Q. 原子炉の注水については、会社としてのトッププライオリティのはずだが、なぜ未だに外部電源に頼る状態になっているのか。外部電源喪失した後に速やかに非常用ディーゼル発電が速やかに稼働する対策をとっていなかったのか。
- A. 外部電源の方が電源の信頼性高い。ご指摘の通り、原子炉にいかにも注水することが安全上確保すべき最大の課題で、実行すべき手段であると考えている。当初は消防車による注水していたが、できるだけ信頼性の電動駆動の給水ポンプで淡水を注水してきた。
- 余震で電源失われる可能性があるので、発電所内に電源車や燃料を供給することで稼働するポンプや消防車で供給する手段を用意していた。
- Q. 津波警報出ているにも対応できるのか。
- A. 今回は出動しなかったが、損傷の程度が大きく長引くということであれば、電源車を稼働させて発電させる手段もあった。
- Q. 具体的にどこにあつて、何分後に対応できるのか。
- A. 外部電源が喪失した段階でそれぞれ平行して検討しており、今回は用意できた一番早い手段を採用した。

Q. 50分で大丈夫な根拠は。

A. 今回は結果的に50分かかってしまったが、その評価は現時点で残留熱の発生量に関して問題がないと考えている。今後は注水できない期間が長くならないように、電源のバックアップを検討したい。

何分ぐらいまで残留熱が問題ないかについては、試算値があるので別途回答させていただきます。

Q. 50分炉内への注水が停止するのはあり得ない。電源の自動切り替え装置があつてしかるべきだと思うが。

A. 今回は結果的に50分程度で復旧した。バックアップ電源の確保等により注水できない時間を短くする仕組みを検討していきたい。現時点では、ようやくここまで復旧してきたが、みなさんにご心配をかけないで済む程度に設備の復旧が進んでいないのは事実である。

Q. 清水社長はなぜ被災者に会わないのか。

A. 今日のところはこういう形をとったが、今後、機会を捉えてお詫びさせていただきます。

Q. 県民に会おうとしたのか。それともそもそも県民には会うつもりはなかったのか。

A. 県民の代表である県知事、副知事、県議会の議長さんお目にかかるつもりだったが、結果的に現地で今回のような形でテレビ等の様々な媒体を通じて県民のみなさまに気持ちをお伝えさせていただいた。

Q. 我々は県民に伝えたいと思って報道したわけではなく、結果的に利用されてしまっただけである。そもそも清水社長は避難場所等へ行く努力はしなかったのか。行かなかった明確な理由は。

A. テレビや媒体の先には心身両面でご苦勞をおかけしている県民がおられるということを重々考えたことから対応させていただいた。今後も機会を捉えてお詫び申し上げる次第。

Q. 県民の方を思って「会わない」という選択をしたということでもいいか。

A. 選択をしたというのではなく、結果としてこういう形になったということ。今後もお詫びをする機会を作る努力を続けたい。

Q. 今日で事故後一ヶ月経つが、東電の事故後の対応、復旧に向けた進捗状況



は。

A. 現在、原子炉を安定的に冷却する方法こと、放射性物質を拡散させないことについて全力を尽くしてやってきたということ。

Q. ここまでは順調と考えているのか、それとも遅れていると考えているのか。

A. 少なくとも順調に進んでいる言い難いと考えている。特にタービン建屋の高濃度の放射性物質については、作業環境を悪化させており、これを適切に処理しないと状況が進まないものと考えている。

瓦礫の処理も進み始めたが、そういった所でも作業環境が悪化していることで作業がなかなか進まない理由と考えている。

余震が続くことにより、我々もさらなる対応・準備をしていかなければならず、まだまだやるべきことがたくさんあると考えている。

Q. 情報発信のあり方で、遅い、タイミング悪いとの批判があるが、どう考えるか。

A. 我々はなるべく早く情報を発信したいと考えているが、放射性物質の濃度や核種の評価で二度にわたり間違えたり、集中廃棄物処理施設と5、6号機サブドレンの放射性物質を含む水の放水については、十分な事前の説明ができなかったことも反省点と考えている。

Q. 意志の決定のプロセスに批判があるが、どのように捉えているのか。

A. 意志決定については、本店2階に統合本部があり、政府の指揮下で実際の作業を行っており、現時点で意志決定に関して何か問題があるとは考えていない。

Q. 課程の部分が全く見えず、いきなり決定事項を発表することが続いているがどう考えるか。

A. 以前からご指摘があるが、我々の検討内容、時期等を記載した工程表等の作成を検討しているところであり、そういった物を提示できれば、プロセスについて皆様のご理解得られると考えているが、現時点で様々なオプションを並行して検討しているので、まだ提示できていない状況。

Q. 今後、どのような姿勢で情報発信していくのか。

A. 情報発信については、速やかに正しく正確に公表したいということを基本的な姿勢として考えていきたい。それは従来から変わらないと考えている。

上記の質疑の後、XXXXXXXXXXよりパラメータの最新情報、本日の作業実績、明日の作業予定等を説明。

以上